



# 学校だより



2021年6月25日  
横浜市立港南台第一小学校

7月号

Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp Tel 832-0210 Fax 832-7771

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/konandail/>

## 「ちえのたね」を育むために

副校長 和田みずほ

通学路でヒマワリが咲いているのを見付けました。1年生のアサガオがつつるのをばし、5組や2年生の野菜もおいしそうな実をつけ始めました。そして、私たちも日々せっせとこどもたちに五つの種(ちえのたね ころのたね げんきのたね まちのたね ゆめのたね)をまき、育てています。五つの種とは、「よこはま教育ビジョン2030」に掲げられている知・徳・体・公・開を表します。今月は、「ちえのたね」のお話です。

今は、多くの情報がいろいろな方法で手に入る時代です。しかし、問題意識をもったり、必要な情報を集めたり、集めた情報から正しい情報はどれか取捨選択をしたり、選んだ情報を活用して何をなすかを決めたりすることは、一人ひとりに委ねられています。このような社会において児童がよりよく生きるために大切なこととは何でしょうか。文部科学省から出されている現行の指導要領の解説、国語編には、次のように書かれています。

急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。(中略) 話や文章に含まれている情報を取り出して整理したりその関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。

そこで、今年度も港南台第一小学校では、校内研究に国語科を取り上げ、説明的な文章の指導法について研究しています。情報を正しく活用し、思いや考えをもち、それを伝え合うことができるような力を付けることを目指し、取り組んでいきます

6月10日  
授業研究会にて



3年「段落とその中心をとらえて読んだことをもとに3の1こま図鑑を作ろう」

5年「文章の要旨をとらえ、YOSHI(用紙・要旨・よし)書くぞうカードに書いて発表しよう」

# 1ねんせい



生活科の授業で、あさがおのたねを植えました。

7がつ



「おおきなあれ♡」  
「おせわをがんばるぞ♪」



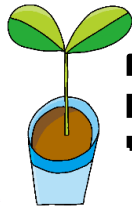
「めがでたよ！」  
「めのかたちが りほんみたいだよ。」



「なにいろの あさがおがさくかな？たのしみだな♡」

「なにいろの あさがおがさくかな？たのしみだな♡」

# 2ねんせい



ぐんぐん 成長しています。



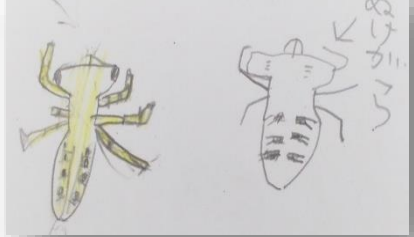
生活科の学習で、学校のプールから救出したヤゴを教室で飼育し、観察しています。



トンボになりました！！  
いってらっしゃい！

ヤゴがだっぴをしていました。だっぴをしたヤゴはすこし黄色でした。つぎは、ヤゴがだっぴするところを見たいです。

ヤゴの足は、6本あります。体から生えていて、うしろ足が一ばん長いです。およぎ方がきれいで、おしりをふわふわとうごかします。



体とかおの色は黒と黄色みたいな色でした。土の色に、にっていました。わたしのヤゴはよく土をほります。一ばんまえの足で土をほります。なんで土をほるんだろうと思いました。

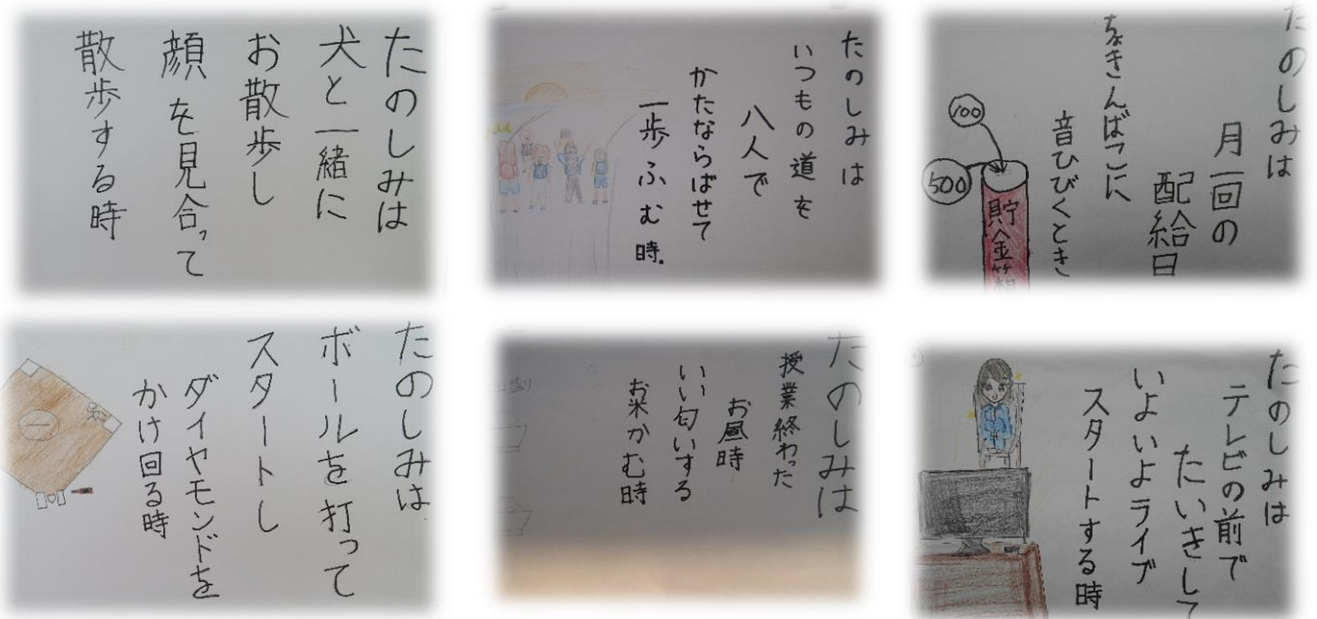
## ★6年生★ 短歌「たのしみは・・・〇〇〇〇〇とき」

6年生では、国語科の学習で、「たのしみ」をテーマに短歌を作りました。自分が感じている、ささやかではあるけれども、幸福な気持ちを五・七・五・七・七の三十一音で書き表しました。

短歌という形式を借り、限られた音数で最大の効果を生むように表現を吟味することがねらいです。

その過程で、1文字の違いや、語順による印象の違いなど、言葉に着目して深く考え、自分の伝えたい気持ち・景色・音・香りなどが読み手によりよく伝わるように、言葉を選んだり表現を工夫したりしました。

友達「たのしみ」に共感したり、新たな発見をしたりと、完成した作品の交流も、とても有意義なものになりました。



### ほっとスペース～児童支援専任からのお知らせ

6月17日 港南区役所 港南警察署 港南土木事務所 PTA 役員 校外委員 自治会長 学援隊方々が集り、地域子どもの安全対策協議会が行われました。主に学区の交通安全について話し合われました。地域の交通安全の環境を整えると同時に、安全のためにまず、自分自身が交通ルールを守ることの大切さを改めて確認する必要を感じました。

守っていますか。



横断歩道を歩行中、信号機が点滅し始めたとき、横断歩道の半分より手前にいる歩行者は引き返さなければなりません。

～警察の方から

一時停止を守らない自転車を見かける。結果、交差点などで危うく走行中の車と接触しそうになっていた。自転車も車として標識に示されたルールを守らなければならない。小学生の乗った自転車が自動車と接触しそうになり危険を感じたことが多々ある。

～地域の方から